



鈴鹿市立加佐登小学校 学校運営協議会だより

第2号

令和7年7月4日発行
学校運営協議会事務局

第2回 学校運営協議会【6月26日(木)開催】(報告)

場所 加佐登小学校 図書室

時間 9:30～10:35

参加者 委員長、副委員長

委員5名、鈴鹿市教育委員会教育支援課担当

学校長、教頭

概要 あいさつ、授業参観、参観後の意見交換、令和7年度学校関係者評価について

◇あいさつ（委員長、学校長）

委員長より「本日は、授業参観を通して子どもたちの様子等を見ていただきたい。参観していただくにあたって、本日の事項書に添付されている学校関係者評価書の視点（主体的に子どもたちが友達と考えを出し合っているか、授業の中でICT機器をどのように活用しているか、図書室の活用の様子はどうか、自尊感情を高め、相手の心を思いやるための取り組みはどうか、いじめのない学校づくり・特別支援教育の推進について…等）を参考にさせていただきながら、見ていただければと考えている。」とあいさつしていただきました。

学校長からは「本年度は研究主題を『主体的に対象と関わり、共に高め合う子どもの育成』と設定して研究を進めている。各学年、国語や算数等の教科の学習をしているが、委員長からも紹介いただいた視点に沿って学校や子どもたちの様子を見ていただければと考えている。また、校内の整備の様子や子どもたちの作品も含めた掲示物等についてもご覧いただき、後ほど忌憚のないご意見をいただければと考えている。」とお伝えしました。

◇授業参観後の意見交換（主なもの）

（1）質疑

Q 現在は、各教室に二人ずつ先生がいるのか？

A 特別支援学級籍の児童が、協力学級で共に学習している時間は、介助員も教室に入る時がある。また、本年度も支援員が一名派遣されている。外国語の学習の時間では、教員と共にALT（外国語指導助手）も入り、複数で授業を行っている。

Q 1年生も単学級で、クラスあたりの人数が多いと感じた。子どもたちも小学校生活にまだ慣れていない中、担任の先生が一人で授業をされているが、学校として工夫していることはあるのか？

A 作業や活動が伴う学習場面や、給食の時間などは、支援員が子どもたちの支援に入ったり、栄養の先生が子どもたちの給食の支援に入ったりしながら複数体制で対応できるよ

うにしている。また、座学の学習場面では、1時間の中に複数の学習活動を適宜設定しながら、子どもたちの集中力が持続するように工夫している。

Q 英語の塾に行っている子もいるのか？

A 詳細な人数までは、調査していない。

Q 水泳の授業について、子ども達の泳力はどうか？

A 水泳の授業は、天候等の関係で現時点ではまだ限られた回数しか行うことができていないが、水の事故を防ぐために、準備・体操等の十分な時間確保を考えると、泳力向上のための指導時間はどうしても限られてくる現状がある。

Q 私たちが子どもたちのところにあった、夏休みのプール開放は、現在は実施しているのか？

A 以前は PTA に運営をお願いして夏休みのプールを開放していたこともあったが、様々な事情で、現在は実施していない。

(2) 感想、ご意見等

- ・子どもたちが掲示物を景色として認識してしまわないように、定期的に更新していただければと考える。
- ・6年生の掲示物は、子どもたちそれぞれが克服する目標を決めて、その目標を表明する内容のものとなっておりとてもいい内容だと感じた。全校にも広げていってもらえればと考える。



図書ボランティアさんの掲示物

- ・トイレのスリッパがほとんど完璧に揃っており、指導がよく行き届いていると感じた。
→普段から子どもたちが整えることができるように、今後も粘り強く支援や指導を継続していきたい。
- ・最近の暑さの中、日頃の温度・湿度管理などの環境管理が大変だろうと推察している。
- ・1年生は、発達段階的にまだ一番手がかかる時期だと思われるが、その段階でも子ども達は落ち着いて授業を受けていたので素晴らしいと感じた。
- ・体育館の空調設備を効果的に活用して、夏の暑い時期でも子どもたちが体調を崩すことなく運動に励めるように、工夫していただければと思う。
- ・先生たちが、子どもたちの実態に合わせて、発表が増えるように授業を工夫していることがわかった。また教室に設置されたプロジェクターと PC をうまく使って授業をされていると感じた。
- ・先生たちが、声をしっかりと教室の後ろまで届けて授業をしていたので良いと感じた。
- ・6学年中4学年が単学級となり、クラスあたりの児童の人数が増えると共に、今後クラス替えもなくなるであろうことから、子どもたちにとってはかわいそうなことだと感じた。
- ・夏休みが近づいているので、水の事故に関しての注意喚起を学校から子どもたちへしていただきたい。

◇学校関係者評価について

学校長より、本年度の教育活動の目標と評価のための具体的な指標について、資料を元に説明した後、質疑を行った。

Q ICT 用の教材は、毎年各担任が作っているのか。

A 作成されたものをうまく活用しながら指導にいかしている。

→先生方の業務の効率化という視点においても、今後も教材の共有化を進めていただければと考える。

Q 配布される ICT の教材等は、市で統一されているのか、それとも各校の裁量で選択できるようになっているのか？

A 教科書は市内統一である。また、それに準じたアプリケーションのソフトウェア等も市内で共通のものが導入されている。ただ、どの場面で、どのように使用するかは、子どもの実態に応じて各担任の裁量で使用している。また、知識伝達型の教材は、多数開発され学校現場にも提供されつつあるが、子どもたちの意見を吸い上げ共有し合うためのツールの活用については、子どもの実態に応じて活用していく必要があるため、状況に応じて異なっている。

Q 避難訓練は年3回行っていると聞いたが、内容については毎回同じか？

A 色々な状況下での災害発生が想定されるので、訓練の内容についても、状況設定を変えるなどして実施しており、今後も考えていきたい。

◇教育支援課担当より

- ・委員の皆さんからのご意見が、今後の学校改善につながる。たくさんのご意見に感謝申し上げたい。
- ・次回は、2学期の様子を見ていただくことになる。本日の子どもたちの様子と比較して、どのように子どもたちが成長・変化しているかという視点で見ていただき、学校関係者評価に反映させていただければと考えている。
- ・本日の授業参観の中で、6年生の学習は、子ども同士での活発な意見交換や交流がされていたと思う。これは今、鈴鹿市教育委員会が研究を推進している複線型の授業スタイルに則ったものである。授業で提示された課題を解決するために、子どもたちが友達と意見交換するなどしながら、それぞれの方法で課題解決に向けて迫ろうとしている姿である。今後、各学年の発達段階に応じて、それぞれの学年の子どもたちの学びのあり方の連続性についても研究を進めていっていただければと感じている。
- ・本日は、今後委員の皆さんに学校の教育活動について評価していただくにあたっての観点を学校より説明してもらったと考えている。子どもたちの様子や学校だよりなどの資料を下に今後評価をしていただけるとありがたい。また、学校も今後、随時子どもたちの様子や学校の状況について委員の皆さんに提示するなどして、評価しやすい手立てについても検討していただきたい。